



# PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

## 西日本決勝 大宝塚GC (兵庫) 初日結果のお知らせ

＜PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会＞

◇第1日◇3月31日

◇兵庫・大宝塚GC (15-18歳の部男子6771ヤード、パー72ほかカテゴリー別) ◇晴れ

◇出場177人◇

＜西日本決勝 初日概況＞

15-18歳の部男子は、大谷元気（福井・福井工大福井高1年）がイーブンパー72でトップに立った。1番をバーディー発進して前半を2アンダーで折り返し、難しい後半インで耐えた。1打差に杉浦悠太（福井・福井工大福井高2年）亀井壮太（香川・香川西高2年）小木野太優（大阪・近畿大付高2年）が続き、混戦になっている。同女子は昨年代表の小野里リア（熊本・クリスチャンアカデミー・イン・ジャパン熊本分校3年）が3バーディー、3ボギーのイーブンパー72で回り、前多愛（大阪・ルネサンス大阪高1年）に1打差の首位に立ち、2年連続代表を狙う。13-14歳の部男子は黒田裕稀（兵庫・豊中南中2年）が4オーバー76で、仲宗根祥仁（沖縄・緑風学園久志中2年）横山翔伍（宮崎・姫城中2年）に1打差をつけて首位に立ち、4年連続世界ジュニア出場に向けて好発進した。同女子は杉浦愛梨（愛知・高浜中3年）が2オーバー74で回り、堀川雪花（静岡・豊田中2年）藤井美羽（愛知・千種台中2年）に2打差をつけてトップに立った。

その他の部門では、11-12歳の部男女は松井琳空海（りうら、愛媛・高津小6年）が75、三明桜子（福岡・沖学園中1年）が71、9-10歳の部男女は篠原和樹（愛媛・川之江小5年）が80、岩永杏奈（兵庫・塚口小4年）が70、7-8歳の部男女は橋本英知（三重・南が丘小3年）が70、鈴木めい（千葉・豊岡小3年）が74で、それぞれ首位に立っている。

決勝大会は西ブロック各地区予選突破者と、昨年のIMG A世界ジュニアのシード権を取れなかった選手がシード選手として出場している。2日間36ホール合計ストロークで争い、15-18歳、13-14歳の部男女は各2人、11-12歳の部以下の男女各3部門は各1人が日本代表に選抜され、IMG A世界ジュニア（7月10～13日、米カリフォルニア州サンディエゴ）に出場する。

また、15-18歳の部男子1位に男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権、13-14歳の部男子1位に同大会の出場を争う「HEIWA・PGM Challenge II～Road to CHAMPIONSHIP」出場権がそれぞれ与えられる。

※所属は進学校、新学年で表記しています。

## ●西日本決勝 初日ハイライト1 ◇15-18歳の部男子

◇第1日◇3月31日◇兵庫・大宝塚GC (6771ヤード、パー72)

15—18歳の部男子は、大谷元気（福井・福井工大福井高1年）が首位に立った。1番で2メートルにつけてバーディー発進、6番で2メートル、8番でも5メートルを決め、ボギー1つに抑えて2アンダーで折り返した。「2アンダーを想定していたので、前半で行ってしまい、予想通りかなと思った」が、後半ボギーが先行してイーブンに。「アイアンが悪いとパターがいい、アイアンがいいとパターが悪い」と、波に乗り切れなかったようだ。昨年まで13-14歳の部で、このPGM日本代表選抜大会とは別ルートの大会で出場権を得てきた。「2回とも2日目が終わって3位だったけど、上に行くはずがやっぱり最終日はいつも負けてしまった。でもレベルの高いところでやりたくて」と、今回はこの大会の予選から上がってきた。「最終日はボギーをたたかなければ、世界ジュニアに行けると思う。アイアンの練習をしています」と話した。



写真：15-18歳男子 大谷元気  
©IJGA2017

## ●西日本決勝 初日ハイライト2 ◇15-18歳の部女子

◇第1日◇3月31日◇兵庫・大宝塚GC (6174ヤード、パー72)

小野里リア（熊本・クリスチャンアカデミー・イン・ジャパン熊本分校3年）が、2年連続世界代表に近づいた。前半をイーブンで折り返し、後半は「バーディーが来たらすぐボギーになった」と、2番で5メートルを入れたが3番で林に入れ、7番で6メートルを決めると8番でアプローチミスと、アンダーに行ってもイーブンに戻った。それでも2位に1打差の首位。「去年、世界ジュニアで予選落ちした。どうしても最終日までやりたい」と、今回も代表を狙っている。この大会はシードだが、チャンスを広げようと関東予選①に出場したが、1打差で東日本決勝大会に進めなかった。「あの時は3パットを6回もしたので、パターをピン型からL字型に替えたらよかった。タッチも柔らかくしたら、ラインが見えてきた」という。「ショットは悪くないので、集中して心の乱れを抑えたい。スコアのことを考えすぎないでやります」と、意欲を見せていた。



写真：15-18歳女子 小野里リア  
©IJGA2017

## ●西日本決勝 初日ハイライト3

◇15—18歳の部男子、13—14歳の部女子

◇第1日◇3月31日

◇兵庫・大宝塚GC (15—18歳の部男子6771ヤード、13—14歳の部女子6174ヤード、ともにパー72)

「きょうだい世界代表」が見えてきた。15—18歳の部男子の杉浦悠太（福井・福井工大福井高2年）が、高校の後輩・大谷元気に1打差の2位につけ、妹の愛梨（愛知・高浜中3年）は13—14歳の部女子で首位発進した。悠太は2014年、愛梨は2016年にともに11-12歳の部で世界ジュニア代表となり、悠太は33位、愛梨は10位になっている。悠太はこの日、前半を2アンダーで折り返したが、後半は3つのボギーで1オーバー73。「3パットを2回。アンダーから落ちたのでさすがに悔しいです」と話した。愛梨もパッティングに苦しんでの2オーバー74に「3パット2回、30センチのも外した。めちゃ、ショックだった」という。この2つのカテゴリーは2位までに日本代表の座が与えられる。悠太は「前はいいスコアを出せなかったけど、もっと上を目指したいので、同年代の外国選手のゴルフを見たい。せっかくなので、妹と一緒にいきたい」と話し、愛梨も「最近は全然一緒にゴルフをしていないので、兄と一緒にいけると心強いです」という。カギは「パター」と口をそろえた。



写真：男子15-18歳2位の杉浦悠太（左）と女子13-14歳1位の杉浦愛梨（妹）  
©IJGA2017